

# 染井遺跡(駒込 4-15-22 集合住宅地区)

## 遺跡見学会資料

染井遺跡・駒込 4-15-22 集合住宅地区は、昨年 12 月 17 日から発掘調査を行なっています。発掘調査では、江戸時代の遺構が主に発見されています。

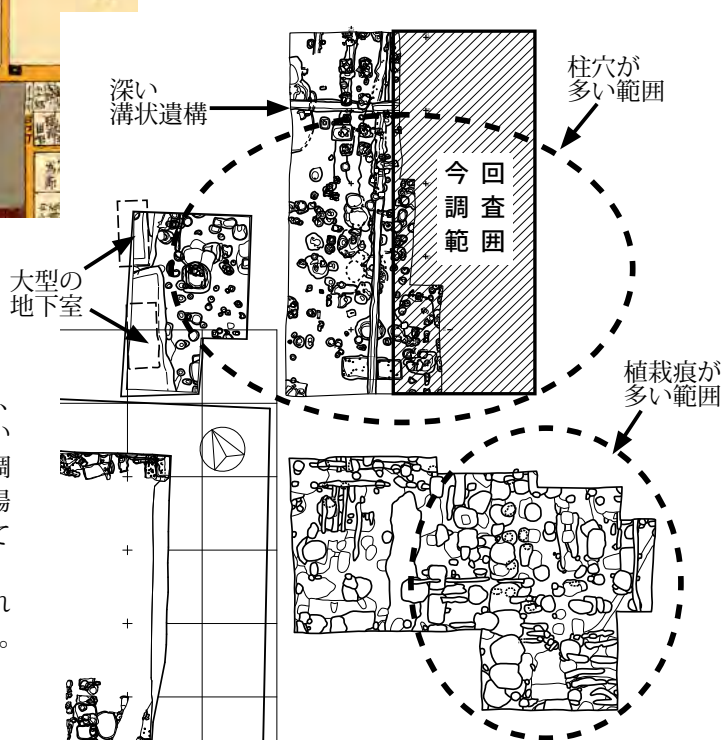
江戸時代、現在の豊島区駒込四丁目から五丁目と、巣鴨二丁目の北側の一部にかけての染井通りの南側には、合わせて約 68,000 坪の敷地を持つ津藩藤堂家の下屋敷と抱屋敷（通称「染井屋敷」）が広がっていました。この「染井屋敷」は、明暦の大火の後の、今からおよそ 350 年前の 1658（万治元）年に成立しました。なお、津藩藤堂家は高虎を初代藩主とし、32 万石の所領をもつ外様大名です。

今回発掘調査を行っている場所は、表門を構えていた染井通りからやや離れた、屋敷地の裏側にあたります。



藤堂家染井屋敷は、敷地のなかに藩主やその家族が暮らしたほか、多い時では 2000 人近くいたとされる家臣の住居や、庭園、花園、動物小屋、倉庫などさまざまな施設があったと当時の記録から知ることができます。しかし、広大な屋敷の中を実際どのように利用していたのか、残念ながら絵図等は現存していないため、詳細を知ることができません。

この 20 年ほどの間に、建築工事の際に発掘調査を実施してきた結果、次第に屋敷の中の実態が明らかになってきました。



今回の調査地の隣でも過去に調査を行っており、そこで発見された柱穴列が今回の調査範囲にまで続いていることが明らかになりました。同時に、近隣の調査区とは異なる状況も明らかになりました。近くの場合であっても、時代により土地の使われ方が異なっている可能性が考えられます。

また、出土遺物の中には、他の調査地点で発見されたものと同じ形、同じ模様のものが見つかっています。

豊島区教育委員会文化財係

2013 年 1 月 10 日

この遺跡見学会は建築事業主並びに関係各位のご協力により開催いたしました。

染井遺跡・ワイズコーポレーション 地区 遺構配置図 (1/100)

(平成25年1月8日検出分)

